

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	北村 英哉	所属	関西大学
研究集会等名称	心理学教育研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 41 名 (うち認定心理士 5名) 非会員 2 名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>質的研究法を心理学のなかで教える意味と方法</p> <p>■日時：2012年9月11日(火)10時～12時 ■場所：専修大学10号館3階10303教室 ■企画趣旨：近年質的研究の興隆に伴い、質的研究法を教えることが求められる場面が多くなった。また、従来の心理学研究法のなかで教えられていた方法においても、質的研究法興隆による理論の精緻化に伴って内容の充実が迫られることがある。本論では具体的工夫と理論的考察によって、質的研究法を心理学のなかで教える意味と方法について考える。 企画者：北村英哉 (関西大学)・荒川歩 (武蔵野美術大学) 話題提供：松嶋秀明(滋賀県立大学)・安田裕子(立命館大学)・谷口明子(山梨大学) 指定討論：北村英哉 (関西大学)・野村信威 (明治学院大学) ■参加者：20名</p> <p>ゲームを授業へ取り入れる意味とその可能性</p> <p>■日時：2013年3月12日(火)16時～18時 ■会場：東洋大学白山キャンパス 125周年記念館(8号館)8301教室 ■企画趣旨：本企画では、シリアスゲーム研究の気鋭の研究者である東京大学の藤本徹先生をお招きし、(1)具体的にどのようにシリアスゲームが教育のなかに埋め込まれているのかを海外や日本の例を挙げていただいた上で、(2)ゲームの何が/なぜ学習や学習に対する動機づけを高めるのかという理論的お話をいただき、さらに(3)実際の授業や教育のなかにシリアスゲームを組み込むにはどのような方法がいいのかについて講演いただき、会場の皆さんとともに、理論や実際について議論した。 ■講演者：藤本徹先生(東京大学大学院情報学環・特任助教) ■コメンテータ：山崎晴美 (日本大学) ■司会：荒川歩 (武蔵野美術大学) ■参加者：32名</p>		